

# 保育内容「環境」の指導法に関する一考察

～幼児が環境と関わる姿の事例検討を通して～

小山 容子

## 1 研究動機

幼稚園教育要領には、「幼児期は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であり、幼稚園教育は、学校教育法に規定する目的及び目標を達成するため、幼児期の特性を踏まえ環境を通して行うことを基本とする」と明記されている。この基本理念は、平成29年改訂の幼稚園教育要領において「幼稚園教育において育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」及び「幼児期における見方・考え方」等が加筆されたことによって、より実践化が求められるものとなった。

もとより環境による教育では、幼児の内面から育つ力を信頼し、その主体性を基本に置いている。なぜなら幼児期は、自分の生活を離れて知識や技能を一方的に教えられて身に付く時期ではなく、生活の中で興味・関心に基づいた直接的・具体的な体験を通して、生きる力の基礎が培われる時期だからである。(文部科学省,2018) そのため、保育者による教育内容に即した意図的・計画的な環境整備と幼児理解に基づいた援助が極めて重要であり、幼児教育の質を左右するといえる。

幼児期の健やかな成長のためにはには、感情を伴った多様な体験が求められるが、現在の社会情勢には、幼児の育ちを支える体験が得られにくい現状があり、幼稚園において環境と関わって遊ぶ経験は、幼児の発達を保障するうえで大変重要なこととなっている。環境や体験の貧弱さやそれらの検討は喫緊の課題である。また、保育者は、様々な環境がどのような価値を持ち、どのような扱い方を子どもに情報発信しているのか多角的に捉える力が必要である。それは、環境が引き出す幼児の経験を理解することにつながるからである。

平成29年改訂の幼稚園教育要領には、教材研究の重要性が初めて明記された。また、本研究のテーマに示した保育内容環境の指導法は、幼稚園教育要領 領域「環境」の内容理解をねらったものである。領域「環境」は幼児が環境と関わる体験—実感—を伴った体験—を通してそのものを理解することを目指している。そこで本研究では、幼児が主体的に遊ぶ場面から物的環境であるモノとの関わりに注目し、幼児にとってのモノのもつ意味—教材性—について探求することとした。

## 2 保育における環境とは

広辞苑によると「環境」とは「①めぐり囲む区域②四圍の外界。周囲の事物。特に、人間または生物をとりまき、それと相互作用を及ぼし合うものとして見た外界。自然環境と社会環境とがある」と記されている。一方、保育の視点でみると、「指導計画の作成と保育の展開」に、「環境とは物理的な事象、建物や設備、自然物や素材などをはじめ、通信機器や出版物など広く社会文化情動的なものを含めた物的環境、自分も含め、親や兄弟姉妹、祖父母などの家族、近隣を含めた地域の人々等、それらが形作る人間関係やその中での社会的な役割や地位、それらが醸し出す雰囲気や意識、価値観などを含めた人的環境、さらには広く時間や空間などのほか、これらの様々な環境が相互に関連し合っつくり出される状況そのものも環境」とある。この説明は、幼児学用語集における「保育環境」についての記述とほぼ同一内容である。したがって、辞書も指導資料も、主体を取り巻くもの全ての事柄が、環境になり得ると記している。

しかし、日々の保育の環境として取り込まれていく事柄は常に全てではなく、その時々で意図的、計画的に選ばれたものであることはいうまでもない。(高梨,2015) 保育環境とは、子どもたち自身が関心を示し直接的な関わりをもつことを前提とし、一人ひとりの育ちに意味をもたらすもの(若月、2014) でなければならず、保育者が幼児の発達に必要な環境を見出して構成することによって保育環境としての意味が生じる。

保育環境のなかで、領域「環境」が対象としている範囲の1つが物的環境—モノとの関わり—であり、物的環境の代表的なものに遊具・玩具がある。遊具は遊びに用いる道具であり、大型遊具に巧技台や大型箱積み木など、固定遊具として園庭にあるぶらんこ、シーソー、ジャングルジム、移動遊具として乗り物遊具、一輪車などがある。玩具は手にもって遊ぶものとして、遊具よりは小さいものを指す。人形、ぬいぐるみ、おもちゃの自動車や電車、ままごと道具や電子おもちゃも含まれ(原口、2007) 保育環境の具体的な教材としての意味をもつ。

## 3 研究目的

幼児が主体的に環境に関わる実態を把握し、環境のもつ教材性を明らかにする。

## 4 研究方法

### (1) 観察記録による研究

#### ① 調査協力者

東京都公立幼稚園 5 歳児 1 学級 4 歳児 1 学級 3 歳児 1 学級  
千葉県私立幼稚園 5 歳児 3 学級 4 歳児 3 学級 3 歳児 3 学級

#### ② 調査方法

- ・ 保育観察記録（行動描写法）及び映像による記録  
9 時～12 時 幼児が好きな遊びを選択して遊ぶ時間
- ・ 聞き取り調査  
記録を基に、保育者に対して環境設定、幼児への指導の意図、その他幼児の先行経験、友達関係等、事例分析に必要な事項を確認した。

#### ③ 観察の視点

- ・ 環境が引き出す幼児の動きや環境の意味
- ・ 保育者の関わり

#### ④ 分析方法

- ・ 観察直後、調査時の記録をもとに、環境、幼児と保育者の行動、発話について詳細な文字記録を作成し、分析資料とした。
- ・ 分析資料をもとに、物的環境と関わって引き出された幼児の動きを抽出し、幼児の経験内容を考察した。
- ・ 事例分析は、協力者 3 名と別々に分析したのち、結果について協議し、妥当性を図った。  
※このうち、本論文においては 3 歳児の事例を掲載した。

#### ⑤ 倫理的配慮

- ・ 本研究の遂行にあたり、事前に協力園に調査目的を説明し、調査実施の許可を得た。

## 5 調査内容（記録）

## 事例 1 タピオカジュース 9月8:55～9:25

登園後A児は、「タピオカ タピオカ カップはどこに」と歌いながらプラスチックの透明カップを手に取り、「先生、これジュースだよ」と保育者に話しかける。タピオカというA児の言葉に気付いた保育者が「タピオカジュースの材料ありますよ」と言って、京花紙を提示すると、A児は笑顔を見せ、隣にいたB児に「私のタピオカ手伝って」と言う。B児は「A児のタピオカ？」とつぶやくがA児には聞こえなかったのか、「喉渴いたから一緒に飲もう」と誘う。そして、ままごとコーナーに行き、ミニスカートを選んで身に付ける。B児もA児の後を追い、同じ種類のミニスカートを選んで身に付ける。その後、カップに京花紙を入れて蓋をし、蓋の穴からストローを差しそれぞれのジュースを完成させる。

A児は「タピオカ、外で座って飲むの、よくない？ベンチ作る？」とB児に問いかけるがB児は黙ったままA児と並んで歩きだす。廊下に近づく途中、B児が立方体のウレタン積み木を手に取り、「テーブル、これにする？」と言って保育室の入口の壁付近に置く。A児も、「これベンチにしよう」と言って直方体のウレタン積み木を入口の壁に沿わせ、B児の積み木の対面に置く。2人は、テーブルとベンチを完成させると並んで座り、タピオカジュースを飲み始めた。

## 《環境》

スカート、プラスチックの透明カップ、ストロー、京花紙、ウレタン積み木

## 《幼児にとっての環境の意味》

- ・カップとストローは飲む、スカートは履く動きを引き出している。
- ・京花紙は丸めてカップに入れ、飲み物に見立てて使用している。保育者が提示した材料によって「作る」ことに関心が向き、友達を誘って作る行動となった。
- ・B児は、A児の誘いに言葉では応えていないが、A児と同じ種類のスカートを選んでいることから、誘いを受入れ、一緒に遊ぶ気持ちになったと理解できる。「おんなじ」スカートは、一緒に遊ぶ仲間のしるしとなり、2人の関係を互いに分りやすくしている。
- ・ウレタン積み木とテーブル等との類似性を見つけ、見立てて使用している。

事例 2 10月 トミカがいっぱいあるの 9:00～9:40

A児はミニカーを1つ手に持ち、次に長方形のウレタン積み木を2つ持って来て縦に並べると、積み木の側面から頂点に向かってミニカーを走らせる。保育者が近くに来て「上に行くの？上に行ったら何があるの？」と聞くと、A児は「トミカがいっぱいあるの」と応え、「ブーン ハシゴ」と言って上に向かって車を走らせる。保育者が「ハシゴ？」と聞くと、A児は「ジャー」と言って積み木を崩し、今度は横に並べ、「車が走る道路！」と言う。保育者が「ハシゴはどうする？」と聞くと、A児は製作コーナーに行き、テーブルに置いてあった長方形の白い紙に、クレヨンでハシゴを2枚描き、セロテープでつなげる。そして積み木の場所に持っていくと、横に並べた積み木を少し離して距離をあけ、紙の橋を載せてセロテープで固定した。そしてハシゴの下を指さして、「川」と保育者にいう。その後、いくつかの積み木をつなげたり、三角積み木で坂を作ったりして少しずつ道路を拡張し、ミニカーを走らせる。

B児は、A児がミニカーで遊ぶのを暫く見ていたが、自分もA児の作った道路にミニカーを持って行って走らせる。B児は、A児の動きを見ながら車を走らせるが、時折A児とは逆走行になっている。A児はB児に対して肯定も否定もせず、好きなようにミニカーを走らせている。ひとしきり走らせ、ミニカーを床に置くと、かごに入った10台ほどのミニカーも一列に並べ始める。そこへB児もやって来て、A児と一緒にミニカーを並べる。

《環境》

ウレタン積み木 ミニカー 長方形の白い紙 クレヨン セロテープ

《幼児にとっての環境の意味》

- ・積み木によって高く積むという行為が誘発され、高く積んだ積み木から倒すという行為が引き出されている。そして倒れた積み木を横に並べ、最終的に車が走る道路と意味付けがなされた。A児は、はじめからこんな道路にしたいという明確なイメージをもっていたわけではなく、実際にミニカーを動かしながら道路作りに至っている。
- ・保育者のA児に対する「上に行くの？上には何があるの？」や「ハシゴはどうする？」という問いかけは、道路のイメージを具体化する助けになっている。
- ・B児は、A児の姿に刺激されて遊びはじめる。
- ・A児とB児は、自分の好きな方向に車を走らせているが、この後A児の作った橋の下で魚釣りをするC児に対して、「お魚釣ってはいけません」と拒否していることから、2者間で場の意味（車を走らせる道路であり、川で魚は釣れない）が共有されていることが分る。最終的には一緒にミニカーを並べていることから、互いに

存在を認め合っていたことが読み取れ、C児に対する拒否は、2人の空間を守るためだったとも解釈できる。

事例3 病院だよ 10月 9:30～10:00

A児とB児の2人は、ままごとコーナーの丸テーブルに恐竜のぬいぐるみを置き、治療をしている。A児が「大変 この子、風邪よ」と言う。B児も「風邪かしら」と言う。2人の様子を見守っていた保育者が、「こんなものもありますよ」と言って聴診器（空き容器にセロテープで紙テープのストラップを貼り付けたもの）を作って見せると、2人は「私も作る!」と言う。そして材料置き場に行き、適当な大きさの容器を選んで作ると、2人で恐竜の体に聴診器をあて「音がします」「お腹が 悪いみたい」「お腹 痛いですか?」「ベットに寝かせましょう」等と言葉を発する。そして、恐竜の診察を終えると、次はウサギのぬいぐるみに聴診器を当てはじめた。

#### 《環境》

ぬいぐるみ、丸テーブル、空き容器、紙テープ（ピンク、水色、白、黄）セロテープ

#### 《幼児にとっての環境の意味》

- ・ 2人は病院という共通イメージをもち、ぬいぐるみを患者に見立てて診察することを楽しんでいる。
- ・ 保育者が提示した聴診器によって診察の動きが具体的になり、発話も増して、遊びが豊かになっている。
- ・ 聴診器の製作は、紙テープが適当な長さにカットされていたため、3歳児の技術でも無理なく取り組めるものであった。セロテープを適当な長さに切る部分はまだ完璧とは言えないが、聴診器の魅力から、ストラップの色を決めながら楽しく作る姿が認められた。
- ・ 廃材置き場には、紙製の廃材とプラスチック製の容器が別々の箱に入れてあることが、材料探しを容易にしていた。また、プラスチック容器は、多種類のものが多数用意されてあることから、幼児自身が大きさや形を選択して製作することを可能にしている。

事例 4 音楽が聞きたい 10月 9:15～9:40

A 児は背中に蝶の羽、頭にモールで作った触覚を付け、カセットテープレコーダーを持って来ると、蝶の曲のカセットテープを入れるために開閉ボタンを押す。しかし、レコーダーに変化がなかったため、「ねえねえ開けて」と、保育者に挿入口を開けることを求めた。保育者が挿入口を開けると、A 児はカセットテープを逆方向に入れる。保育者が「こうかな」と正しい向きを教え、A 児は正しく挿入し、再生ボタンを押す。だが音楽は流れず、「聞こえない」と言う。そこで保育者は「ピンクのビニールテープに矢印を書いて貼ってあるボタンを押し、テープが止まったら“始まるよボタン”(♪マーク)を押すのよ。×は聞こえなくなってしまうから押さないでね」と、A 児に操作の方法を教える。すると A 児は巻き戻しボタンを押し、挿入口に顔を近づけて中を覗き込み、テープが動くのを確認する。

《環境》

蝶の羽 触覚のお面 カセットテープレコーダー カセットテープ

《幼児にとっての環境の意味》

- ・ A 児は羽や触覚を付けることで、蝶になったつもりで動いている。
- ・ カセットテープレコーダーの操作ボタンには、表示が貼り付けてあり幼児でも操作しやすくなっているため、A 児は音楽を流すという目的をもち、自分で操作しようとして関わっている。しかし、思うように曲が流れなかったことから、なぜ音が出ないのかと不思議に感じ、カセットテープレコーダーの仕組みに関心を示している。

## 6 まとめと考察

### (1) 物的環境の意味

事例分析を基に、3 歳児が物的環境と関わって遊ぶ姿の実態から物的環境の意味をまとめると、次の 5 つになる。

- ① 類似性を見つけて見立てる、イメージを実現する。  
(事例 1…積み木)
- ② 何かになりきるための媒介。遊びの発想を広げたり、深めたりする。  
(事例 1…スカート 事例 2…ミニカー 事例 3…聴診器 事例 4…羽)
- ③ 興味、関心を引き出す。遊び出しのきっかけになる。  
(事例 1、2、3…タピオカ、ミニカー、聴診器の材料)
- ④ 友達との関わりを生む。友達とのつながりを感じさせる。  
(事例 1、2…積み木、スカート、ミニカー )

⑤ 技術を向上させる。

(事例 3…セロテープ 事例 4…カセットテープレコーダー)

(2) 保育者の援助

幼稚園の入園は満3歳からはじまる。不安を抱えて生活する幼児も、保育者との信頼関係ができると安心して探索活動を始める。自分をわかってくれると感じた時、幼児は大人に信頼を寄せる。それは遊び場面も同様である。保育者の関わりによって遊びが楽しくなると、幼児の信頼は深まる。楽しくなると活動意欲も高まっていく。特に3歳児は、興味をもった遊びを一人であるいは先生と一緒に楽しむ時期である。そこで、事例から、保育者の関わりについて重要な点をまとめてみたい。

① 発達や興味・関心をとらえ、適切なタイミングで教材を提示する。

保育者は、タピオカや聴診器の材料を、幼児の動きや言葉をきっかけに提示しており、完成品は3歳児が容易に製作できるものであった。保育者が楽しそうに作って見せる姿も幼児の興味喚起につながっている。「私にもできそう」「やってみたい」そのような教材をいつでも提示できる状態にしておくことが大切である。

② 子どもが親しみやすい物を用意する。

3歳児は、自分が見慣れた物、よく知っている物を探そうとする。「うちにもある」「知っている」物が、家と新しい環境をつなぐ手がかりになり、それを告げることが保育者に対する信頼の表れである。(中沢,2016)といわれるように、事例のミニカーやぬいぐるみは、一般に家庭でも遊び慣れているものであり、幼児が安心して関わられる環境である。保育者は、幼児の家庭や地域での経験を把握し、環境構成に生かす必要がある。

③ 幼稚園でこそ経験できる物を用意する。

積み木等は、家庭では経験できない物への魅力から登園を楽しみにする幼児がいる。事例では、カセットテープレコーダーがその1つである。幼児に経験させた内容を考え、適宜導入する必要がある。

④ 同じ遊具を多数用意する。

ミニカーの事例のように、友達が遊んでいる姿に刺激を受けて自分も遊んでみたくなるのが3歳児である。一人遊びを楽しみ、ようやく友達と関わりが生まれ、平行遊びが展開する時期である。(師岡,2014)

⑤ 一人一人が興味をもって取り組むことができる物を用意する。

柔らかな感触があるもの、そのものになって楽しめるものなどが考えられる。

今回の遊び場面では、どの幼児も自分が取り組みたい遊びを見つけ、落ち着いた雰囲気の中で遊びを楽しんでいた。この要因として、安心して自分を出せる雰囲気や、ゆったりと取り組める時間、空間や動線が確保されていたことがあげられる。今後は、



この点に関連させながら、環境の意味や保育の在り方を探るとともに、各年齢における実態についても調査していきたい。

#### 引用・参考文献

- 大豆生田啓友編著『倉橋惣三を旅する 21世紀型保育の探求』フレーベル館,2017年,146-149
- 小田豊「保育環境」森林監修『ちょっと変わった幼児学用語集』北大路書房,1996年 pp.90
- 佐川咲子「3,4歳児の育ちと環境との関わり」神長美津子・堀越紀香・佐々木晃編著『乳幼児教育・保育シリーズ教育課程コアカリキュラム準拠 保育内容環境』光生館,2018年,pp.33-36
- 高梨珪子「改めて環境の構成を問う」(『平成27年度研究紀要』全国幼児教育研究協会,2017年,pp.62-65
- 中沢和子『新訂 子どもと環境』萌文書林,2016年,pp.37-45
- 原口純子「保育遊具・保育玩具」森上史郎・柏女靈峰編『保育用語辞典』ミネルヴァ書房,2007年,pp.143
- 師岡章「子どもの発達と環境」岸井勇雄・武藤隆・柴崎正行監修 横山文樹編著 師岡章・寺田清美・瀧川光治・原子はるみ・野口隆子・堀越紀香・吉村香・坪川紅美著『保育・教育ネオシリーズ18 保育内容・環境 第二版』同文書院,2001年,pp.33-34
- 若月芳浩編著『保育・幼児教育シリーズ環境の指導法』玉川大学出版部,2014年 pp.53
- 文部科学省幼稚園教育指導資料第1集「指導計画の作成と保育の展開」フレーベル館,2013年

## **A Study of “Environment” in the Early Childhood Care and Education Setting**

— Through a Case Study of a Child's Relationship with the Environment —

**Yoko KOYAMA**

The Course of Study for kindergartens "Environment" aims to help infants understand the subject through an experience (experience with actual feeling) related to the environment. In this study, we focused on the relationship between a three-year-old child and a physical environment from the scene in which he played independently and explored the meaning of the object for infants. As a result of the case study, from the play scene of a three-year-old child, teaching material of physical environment was found such as imitate, mediator to become something, trigger of play, feel a connection with friends, and improve skills.